

全体説明

本県道徳教育の推進状況と今後の方向性



令和2年2月7日
広島県教育委員会
義務教育指導課



一人一人の
豊かな心
道徳教育

生徒の記述

最後に、介護体験は、**人への思いやり**、**コミュニケーション能力**、**忍耐力**が大切となる体験だと思いました。施設の方から教わった「ただ介護するだけでなく、利用者さんを**笑顔にできる**かも凄く大事なポイント。」という言葉もこれから大切にしようと思います。 広島県立熊野高等学校第1学年

今年度の重点目標

「深い学び」のある授業づくりに向けて

①「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

組織的・計画的な評価にするために

②道徳科の趣旨を踏まえた評価の取組

道徳教育推進教師を機能させるために

③道徳教育推進教師の役割を明確にした体制づくり

道徳教育推進教師の役割と
確かな道徳教育の展開

学校の教育活動全体



5

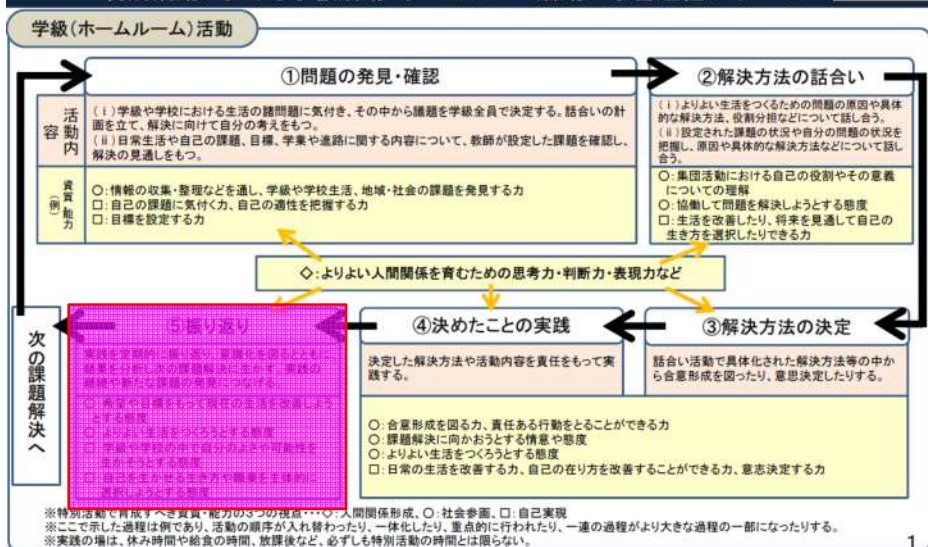
補充, 深化, 統合

特に、各教科、(外国語活動)、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育として**取り扱う機会が十分でない内容項目に関わる指導を補うこと**や、**児童(生徒)や学校の実態等を踏まえた指導をより一層深めること**、**内容項目の相互の関連を捉え直したり発展させたりすることに留意すること。**

「第3章 特別の教科 道徳」の「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」の2

6

特別活動における学級活動・ホームルーム活動の学習過程のイメージ 別添17-3



1

中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」(平成28年12月21日)

7

➤ 振り返りの充実

- ・ 振り返りの機会
- ・ 振り返りの質
 → 視点を設定
 → 他者視点の導入
- ・ 総括の機会

8

各教科等で行う道徳教育

- ・断片的 →つなげる
- ・表面的 →深める
- ・一過性 →繰り返す
- ・見ているが見えていない
→見える化, 共有化

9

道徳科を道徳教育の要とするための道具

全体計画 別葉 年間指導計画

補充・深化・統合という役割がこれら計画の中で明確に意識されているか？

確かな道徳教育の展開と
するための道具

10

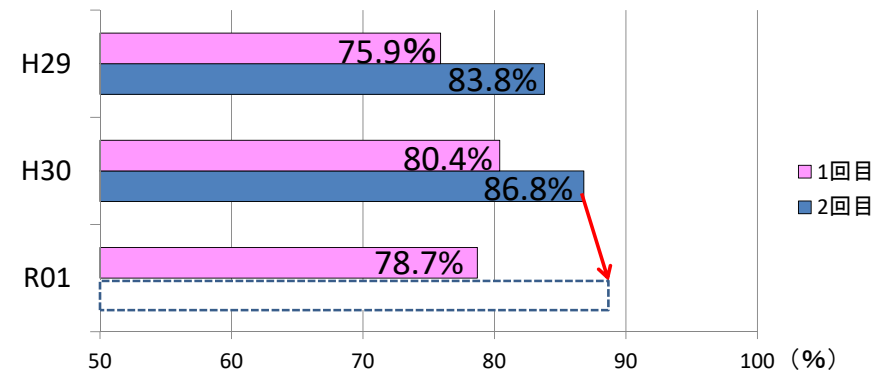
道徳教育を推進する教師の役割

- ・道徳教育の指導計画の作成に関すること
- ・全教育活動における道徳教育の推進, 充実に関すること
- ・道徳科の充実と指導体制に関すること
- ・道徳用教材の整備・充実・活用に関すること
- ・道徳教育の情報提供や情報交換に関すること
- ・道徳科の授業の公開など家庭や地域社会との連携に関すること
- ・道徳教育の研修の充実に関すること
- ・道徳教育における評価に関すること など

11

道徳教育の推進を主に担当する教師(道徳教育推進教師)は, 校務分掌上機能していると思うか

教職員 (小・中学校)

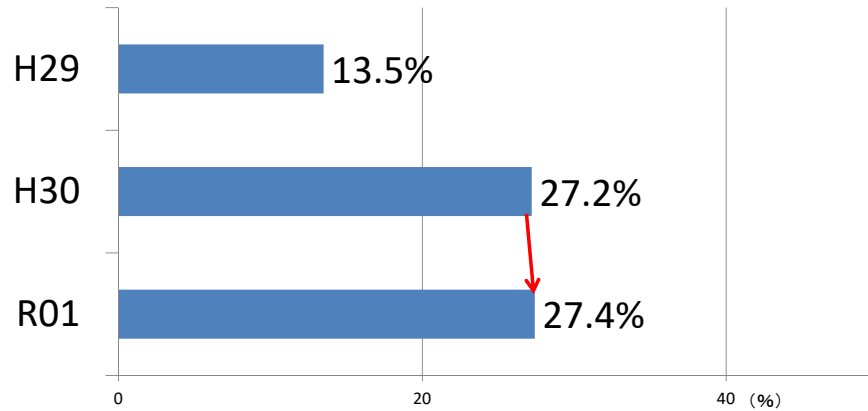


各市町道徳教育推進協議会 参加者アンケート(広島市を除く)

12

道徳教育の推進を主に担当する教師(道徳教育推進教師)は、校務分掌上機能していると思う。

教職員(高等学校)



高等学校道徳教育推進協議会 参加者アンケート

道徳教育の要となる道徳科の充実を図る。

全教育活動を通じて行う道徳教育を意図的・計画的に行う。

道徳教育の推進者になられた先生方は何から行うのか？

家庭や地域社会との連携による道徳教育を推進する。

校内環境を整える。

各市町道徳教育推進協議会の活用

今年度の重点目標

「深い学び」のある授業づくりに向けて

①「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善

組織的・計画的な評価にするために

②道徳科の趣旨を踏まえた評価の取組

道徳教育推進教師を機能させるために

③道徳教育推進教師の役割を明確にした体制づくり

評価の考え方を踏まえた道徳科の授業改善
—道徳科における「主体的・対話的で深い学び」—

道徳科の評価

道徳科の授業で見られた児童生徒の評価

児童(生徒)の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要がある。ただし、数値などによる評価は行わないものとする。

「第3章 特別の教科 道徳」の「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」の4

17

道徳科の評価の基本的態度

道徳科は、道徳教育の目標に基づき、各教科、(外国語活動)、総合的な学習の時間及び特別活動における道徳教育と密接な関連を図りながら、計画的、発展的な指導によって道徳性を養うことがねらいである。

道徳性とは、人間としてよりよく生きようとする人格的特性であり道徳的判断力、道徳的心情、道徳の実践意欲及び態度を諸様相とする内面的資質である。このような道徳性が養われたか否かは、容易に判断できるものではない。

しかし、道徳性を養うことを学習活動として行う道徳科の指導では、その学習状況や成長の様子を適切に把握し、評価することが求められる。

第5章 第2節 道徳科における児童(生徒)の学習状況及び成長の様子についての評価 18

例:ねらい

道徳性を養うための授業

自分とは異なる見方や考え方があることを理解し、互いに分かり合うために、謙虚さと広い心をもって受け止めようとする態度を育てる。

- 道徳的価値がどれだけ理解できたか？
- 道徳性の様相がどれだけ育ったか？

教師はねらいを設定して授業に臨むが、そのねらいをゴールとして児童生徒の評価は行わない。

19

道徳科の評価の在り方

- ・数値による評価ではなく、記述式とすること
- ・個々の内容項目ごとではなく、大きくりなまとまりを踏まえた評価とすること
- ・他の児童生徒との比較による評価ではなく、児童生徒がいかに成長したかを積極的に受け止めて認め、励ます個人内評価として行うこと
- ・学習活動において児童生徒がより多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかといった点を重視すること
- ・発達障害等のある児童生徒が抱える学習上の困難さの状況等を踏まえた指導及び評価上の配慮を行うこと
- ・調査書に記載せず、入学者選抜の合否判定に活用することのないようにすること

20

道徳科の評価の基本的態度

しかし、道徳性を養うことを学習活動として行う道徳科の指導では、その**学習状況**や**成長の様子**を適切に把握し、**評価することが求められる。**

第5章 第2節 道徳科における児童(生徒)の学習状況及び成長の様子についての評価

児童生徒の学習状況は、指導によって変わる。

児童生徒の評価ができる「主体的・対話的で深い学び」のある道徳科の授業を目指すことが大切。

21

道徳教育における評価の意義

教師

教師が指導の目標や計画、指導方法の改善・充実に取り組むための資料となるもの

児童生徒

自らの成長を実感し、意欲の向上につながるもの

指導に生かされ、児童生徒の成長につながる評価でなくてはならない。

指導と評価の一体化

22

深い学びの鍵となる「見方・考え方」

道徳科の目標の学習活動と同じと見ることができる

多様な事象を、道徳的諸価値の理解を基に、自己との関わりで（広い視野から）多面的・多角的に捉え、自己の（人間としての）生き方について考えること

中央教育審議会(答申)28. 12. 21

主体的・対話的で深い学びの実現

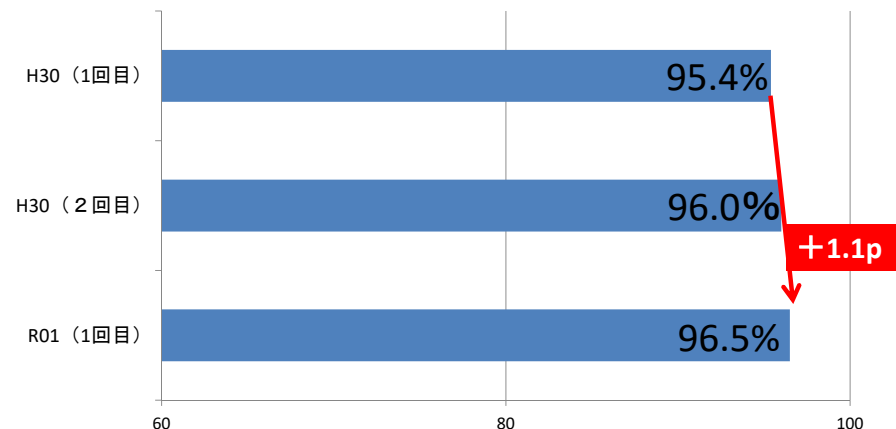
道徳科の「アクティブ・ラーニング」

答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の児童生徒が自分自身の問題と捉え、向き合う「**考え、議論する道徳**」の実現

23

道徳科の内容は充実していると思うか

成果！



各市町道徳教育推進協議会 参加者アンケート(広島市を除く)

24

道徳科の目標

第1章総則の第1の2の(2)に示す道徳教育の目標に基づき、よりよく生きるための基盤となる道徳性を養うため、道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を(広い視野から)多面的・多角的に考え、自己の(人間としての)生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てる。

「小・中学校学習指導要領 第3章 特別の教科 道徳」

25

目標

道徳的諸価値について理解する

(1) 価値理解

人間としてよりよく生きる上で大切なことであると理解すること

(2) 人間理解

道徳的価値は大切であってもなかなか実現することができない人間の弱さなども理解すること

(3) 他者理解

道徳的価値を実現したり、実現できなかったりする場合の感じ方、考え方は一つではない、多様であるということを前提として理解すること

26

目標

自己を見つめる

- 道徳的価値の理解を図るには、児童生徒一人一人がこれらの理解を**自分との関わり**で捉えることが重要
- 人間としてよりよく生きる上で大切な道徳的価値を**自分のこと**として感じたり考えたりすることが大切

27

目標

自己を見つめる

- これまでの**自分の経験やそのときの感じ方、考え方**と照らし合わせながら、更に考えを深めること

自己理解



28

およげない りすさん

出典:「私たちの道徳」小学校1・2年 (文部科学省)

かめ、あひる、白鳥が池の中の島へ行こうとした際に、一緒に連れて行ってほしいと言うりすに、泳げないから駄目だと断ってしまう。

りすがいないまま遊んでも楽しくなかったみんなは、次の日、りすに昨日のことを謝り、今度はりすをかめの背中に乗せて、みんなで島に向かう。



29

みんなで島に向かう場面



りすをおいて島で遊ぶ場面



【発問例】

島で遊んでも、**少しも楽しくない**かめやあひるや白鳥さんは、どんな気持ちなのでしょう。

30



【発問例】

島で遊んでいるとき、かめやあひるや白鳥さんは、どんな気持ちでしょうか。

31

- ・登場人物の気持ちに共感する。

島で遊んでも、**少しも楽しくない**かめやあひるや白鳥さんは、どんな気持ちなのでしょう。

- ・登場人物に共感して気持ちを考える。

島で遊んでいるとき、かめやあひるや白鳥さんは、どんな気持ちでしょうか。

楽しいか、楽しくないかは、目の前で授業を受けている子供たちが、これまでの自分の体験から考えること！

32

目標

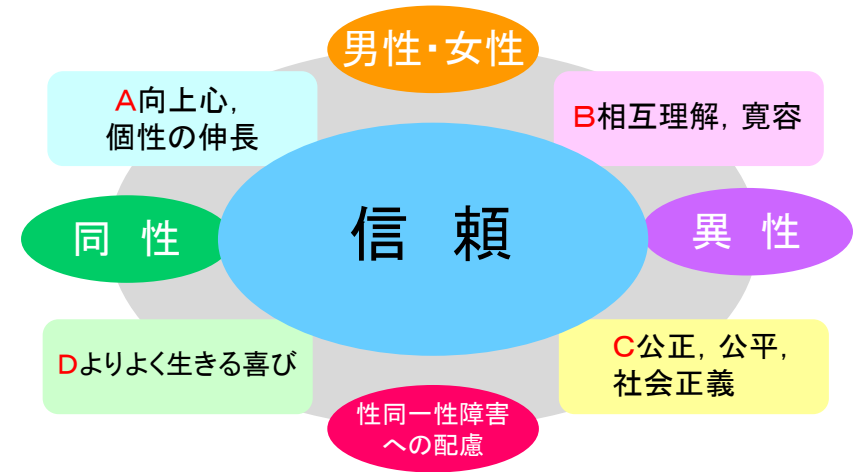
多面的・多角的に考える

■「**多面的**」とは、学習対象が様々な面をもっていることを、「**多角的**」とは、学習対象を様々な角度から考察し、理解することを意味している。

物事を多面的・多角的に考える学習を通して、児童生徒一人一人は、**価値理解**と同時に**人間理解**や**他者理解**を深め、更に自分で**考えを深め**、**判断し**、**表現する力**などを育む。

33

友情, 信頼



34

目標

自己(人間として)の生き方について考えを深める

例えば

- 児童が道徳的価値に関わる事象を**自分自身の問題**として受け止められるようにする。
- 他者の多様な感じ方や考え方に触れることで身近な集団の中で**自分の特徴**などを知り、**伸ばしたい自己**を深く見つめられるようにする。
- それとともに、これからの生き方の課題を考え、それを自己の生き方として実現していこうとする**思いや願い**を深めることができるようにする。

35

目標

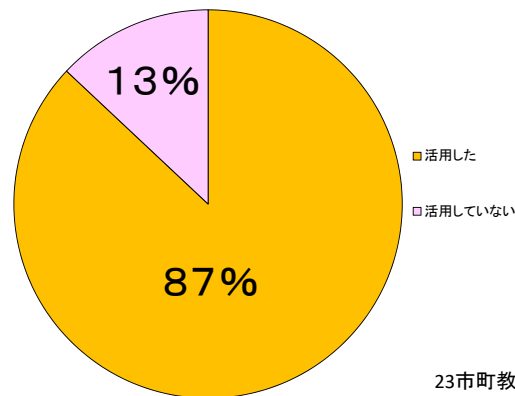
道徳的な判断力, 心情, 実践意欲と態度を育てる

道徳性とは、人間としてよりよく生きようとする人格的特性であり、道徳教育は道徳性を構成する諸様相である**道徳的判断力**、**道徳的心情**、**道徳の実践意欲と態度**を養うことを求めている。

36

研修用実践事例DVD(小学校版)の活用について

研修用実践事例DVD(小学校版)を活用しましたか



【活用方法】

- 1 希望する学校の校内研修
- 2 各市町道徳教育推進協議会
- 3 管内研修会等
- 4 その他

23市町教育委員会に対するアンケートより

授業に対する評価

道徳科の学習指導過程や指導方法に関する評価の観点の例

ア 学習指導過程は、道徳科の特質を生かし、道徳的価値の理解を基に自己を見つめ、自己の(人間としての)生き方について考えを深められるよう適切に構成されていたか。また、指導の手立てはねらいに即した適切なものとなっていたか。

イ 発問は、児童(生徒)が(広い視野から)多面的・多角的に考えることができる問い、道徳的価値を自分のこととして捉えることができる問いなど、指導の意図に基づいて的確になされていたか。

ウ 児童(生徒)の発言を傾聴して受け止め、発問に対する児童(生徒)の発言などの反応を、適切に指導に生かしていたか。

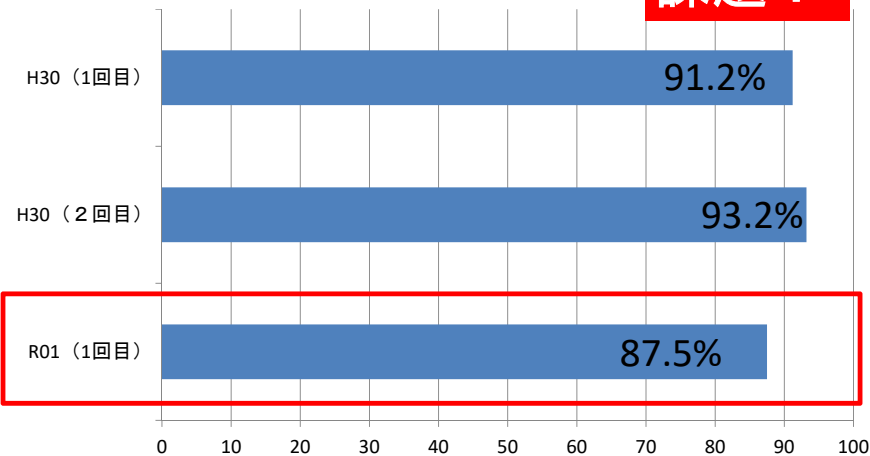
エ 自分自身との関わりで、物事を(広い視野から)多面的・多角的に考えさせるための、教材や教具の活用は適切であったか。

オ ねらいとする道徳的価値についての理解を深めるための指導方法は、児童(生徒)の実態や発達の段階にふさわしいものであったか。

カ 特に配慮を要する児童(生徒)に適切に対応していたか。

道徳科で勉強したことを自分の生活にいかしているか

課題!



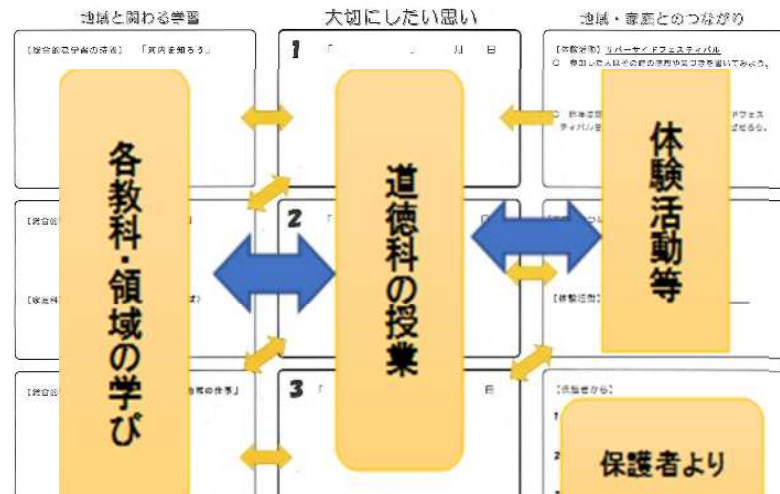
各市町道徳教育推進協議会 参加者アンケート(広島市を除く)

東広島市立河内中学校区の実践 (令和元年度河内中学校区公開研究会要項より)

道徳科と諸活動との関連性を意識する

道徳科を点で終わらせない!

道徳学習ポートフォリオの作成及び活用



児童生徒の学びをつなぐ！

各学校には、**学習指導要領等を受け止めつつ**、子供たちの姿や地域の実情等を踏まえて、**各学校が設定する学校教育目標を実現するために**、**学習指導要領等に基づき教育課程を編成し**、それを**実施・評価し改善していく**ことが求められる。



カリキュラム・マネジメント

中央教育審議会「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」(平成28年12月21日)

カリキュラム・マネジメント

各学校においては、生徒や学校、地域の実態を適切に把握し、

- ①教育の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと、
- ②教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと、
- ③教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくことなどを通して、教育課程に基づき組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質の向上を図っていくこと(以下「カリキュラム・マネジメント」という。)に努めるものとする。

※中学校学習指導要領(平成29年告示)第1章総則にも同旨

指導は、子供が自らのよさや成長を実感できるように工夫するもの

評価は、子供の成長を願って行われるもの

子供にとって

心の成長につながる

いちばんの評価は

信頼できる先生に認められること